

## 第88回二松學舎大学人文学会大会講演題目・研究発表要旨

日時 平成十五年十一月二十二日(土)  
場所 柏沼南校舎一号館三〇六教室

### 講演

#### 土佐日記と年中行事

本学文学部教授 菅根 順之 先生

#### 中国語教育に携わった三十数年を回顧して

本学文学部教授 久保田 美年子 先生

### 研究発表

#### 《国文学》

##### 会津暦の書誌学的研究

博士後期課程三年 柏川 修一

会津暦は、江戸時代初期から存在する地方暦である。

この暦は、内容上とは別に、形態上などにおいて他の暦とは異なる特色を有している。その一つは、装丁法であり、今ひとつは、印

刷上のものである。これは近世の出版に関係してくる問題である。

会津暦についての先行研究は、その内容の問題を取り上げたものもあるものの、書誌的な面からの研究は、十年前の拙論位であり、ここで一度、その特色を取り上げた。しかし、本年九月末に発行された、『会津若松市史』第五号に「研究ノート 諏方暦と会津暦」(安藤紫香著)として、書誌的な面に及んでの記述があった。その中には、興味深い部分があるとともに、問題点も含んでいた。

その問題点のうちの一つは、前述の拙論に伴う年表が元となっている可能性が高いため、今回は資料(一覽表)を新たにして、その問題点を考え、また新一覽表から判明した事柄にも触れたい。

#### 《中国学》

##### 『詩経』豳風・東山篇に見える「宵行」の解釈

博士前期課程一年 遠藤 寛朗

近年の『詩経』研究は、詩篇全体の内容を意味付ける「興」詞の解明、そして、伝統的解釈では、有徳者・統治階級にある者等とされていた「君子」は、実は祖霊や神霊を指すこと等が究明され、目覚ましい発展を遂げ、詩篇全体の解釈は、大幅な変革が生じた。